

MACROCOSM



CONTENTS

- 2 JENESYS2.0 日ASEAN学生会議
- 8 国際理解教育支援プログラム
- 9 平成25年度内閣府青年国際交流事業(航空機による青年海外派遣)報告会
- 10 第40回「東南アジア青年の船」事業報告会
- 11 内閣府青年国際交流事業説明会 平成25年度実施報告
- 12 青少年国際交流を考える集い
- 14 IYEO自主活動サポート助成金制度(チャレンジ・ファンド)を活用した活動

マクロコズム



JENESYS2.0 日ASEAN学生会議

平成25年12月7日(土)～12月16日(月)の9泊10日の日程で、一般財団法人青少年国際交流推進センターが主催・実施団体としてASEAN加盟国から大学生、大学院生を中心とした青少年149名を招へいし、プログラムを実施しました。

参加青少年は、日ASEAN友好協力40周年を記念して実施される日ASEAN特別首脳会議の開催にあわせて実施される「日ASEAN学生会議の3泊4日のディスカッションプログラム(12月12日～15日)」に先立ち、各国別に都内を視察しました。その後、学生会議の五つのトピック別グループに分かれ、滋賀県、和歌山県、鳥取県、北海道函館市、鹿児島県を各グループが訪問し、各トピックに関連する施設の視察及び地域の伝統芸能に触れ、日本の伝統、文化、生活様式等について理解を深めました。

日本の学生を交えた「3泊4日のディスカッションプログラム」では、「日本及びASEANの青少年は、アジアの平和、安定、成長及び繁栄に対し何が出来るか」を共通テーマに、日本とアジアに共通する諸課題から、「教育」、「青年の起業」、「環境と企業の社会貢献」、「ボランティア精神に基づいた青少年の社会貢献活動」、「伝統文化」の五つのトピック別グループに分かれ、参加者自らが積極的に社会活動に取り組み、ASEAN加盟国及び日本社会にどのように貢献できるかを考え、関連施設の視察及び意見交換を行いました。今後の活動計画を含むディスカッションの成果は、ASEAN事務局に報告書とともに提出されました。

12月13日(金)には、日ASEAN特別首脳会議の配偶者プログラムとして、日ASEANの首脳令夫人等が訪れ、参加者の声に耳を傾けました。その後、安倍昭恵総理令夫人と参加各国の代表青少年との懇談が行われました。

参加国及び参加者人数 ASEAN加盟国の10か国から各国約15名ずつ計149名
 ブルネイ(15)、カンボジア(15)、インドネシア(15(引率同行者含む))、ラオス(15)、マレーシア(14)、ミャンマー(15)、フィリピン(15)、シンガポール(15)、タイ(15)、ベトナム(15)
 「日ASEAN学生会議・ディスカッションプログラム」参加の日本青少年：28名

関係団体 後援：日本国外務省／資金拠出元：日・ASEAN統合基金
 ※本プログラムはASEAN事務局の承認を得て実施されました。

全体日程

月日	内容
12月7日(土)	成田国際空港より入国
12月8日(日)	東京プログラム(前半) オリエンテーション、オープニング・ランチ・レセプション 都内視察(浅草、原宿、江戸(深川資料館、清澄庭園、富岡八幡宮))、国別交流
12月9日(月)～11日(水)	地方プログラム(5つのトピック別グループに分かれて約30名ずつ訪問) 滋賀県……………①教育 和歌山県……………②青年の起業 鳥取県……………③環境と企業の社会貢献 北海道函館市……………④ボランティア精神に基づいた青少年の社会貢献活動 鹿児島県……………⑤伝統文化
12月12日(木)～15日(日)	東京プログラム(後半) 3泊4日のディスカッションプログラム ※トピック別のディスカッション及び課題別視察
12月13日(金)	日ASEAN特別首脳会議配偶者プログラム 安倍昭恵総理令夫人及びASEAN各国首脳等令夫人と各国参加青少年との懇談 安倍昭恵総理令夫人と各国代表青少年との懇談 課題別視察 ①【教育】ポニースクールかつしか ②【青年の起業】株式会社旅と平和「パクターハウス東京」 ③【環境と企業の社会貢献】有限会社エコネットワークス(国際展示場エコプロダクツ2013訪問) ④【ボランティア精神に基づいた青少年の社会貢献活動】明治学院大学 ⑤【伝統文化】裏千家東京出張所 文化交流夕食会
12月14日(土)	トピック別ディスカッション
12月15日(日)	成果発表会、修了式、歓送会
12月16日(月)	成田国際空港より出国

東京プログラム(前半) 都内視察 12月8日(日)



オープニング・ランチ・レセプション



日本人ボランティアと清澄庭園を訪れ、紅葉の鮮やかさを実感する(都内視察・江戸コース)

地方プログラム 12月9日(月)～11日(水) 

訪問県市	見学・訪問先(課題別視察含む)	表敬・交流	文化体験
滋賀県 ①【教育】 受入団体:滋賀県青年国際交流機構	竜王町立竜王小学校、彦根城、玄宮園、琵琶湖博物館、甲賀忍者村	滋賀大学生との彦根城下町散策、 歓迎レセプション	お茶席
和歌山県 ②【青年の起業】 受入団体:海友会	旅カフェ セントラル(ユタカ交通株式会社代表者より、 青年の起業についての講義)、和歌山城公園	県庁表敬、歓迎レセプション、近畿大学生物理工学部・意見交換 【講義】近畿大学の研究成果をいかした新たなビジネスへの取組	紀州漆器の蒔絵
鳥取県 ③【環境と企業の社会貢献】 受入団体:とっとり青友会	鳥取環境大学、鳥取砂丘、砂の美術館、鳥取大学乾燥地研究所、とっとり自然環境館、境港(水木しげるロード)	県知事表敬、鳥取環境大学生との交流(英語村)【講義】県環境政策概要について、歓迎レセプション	
北海道函館市 ④【ボランティア精神に基づいた青少年の社会貢献活動】 受入団体:一般財団法人北海道国際交流センター	北海道教育大学、大沼国定公園(国際ワークキャンプの筏づくり視察)、昆布館、函館山ロープウェイ、五稜郭タワー、金森赤レンガ倉庫	市役所、遺愛女子高校訪問、歓迎レセプション	茶道(龍寶寺)
鹿児島県 ⑤【伝統文化】 受入団体:鹿児島県青年国際交流機構	始良市蒲生町蒲生八幡神社、蒲生和紙工房、仙巖園、鹿児島市立美術館、桜島、西本願寺、照国神社、薩摩切子、くろず情報館	県庁・市役所関係者が出席した歓迎レセプション(伝統芸能—太鼓の見学及びお手玉の体験)、地域の大学生との意見交換	お茶・和菓子、刀(示現流)

滋賀県(①教育)

ASEAN各国から青年を40名受け入れるという貴重な機会を自分たちの中だけで終わらせるのではなく、様々な人にかかわってみたいと考えました。小学校訪問や彦根市内で活動する地域活性化団体等を組み込むことで、より多くの滋賀県の方に協力を得ることができ、貴重な経験となりました。(受入実行委員会アンケートより抜粋)



甲賀忍者村で手裏剣に挑戦する



歓迎レセプション

和歌山県(②青年の起業)

「青年の起業」のテーマに沿って旅カフェ セントラルを訪問し、多くの新事業を手がける「ユタカ交通(株)」の代表から青年の起業について講義を受けました。さらに、大学での研究を新たな事業に結び付けた多くの実績を持つ近畿大学も訪問しました。プログラムでは、ASEAN10か国の同年代の青少年が国を超えてつながり、協力することによって足りないことを補い合い、新しいことを起こす可能性を話し合いました。今後、この交流を通じて、実際にそのような事業が実現すれば素晴らしいと思います。(受入実行委員会アンケートより抜粋)



旅カフェ セントラルを訪問し、ユタカ交通(株)の代表から青年の起業について講義を受ける



近畿大学生物理工学部を訪問し、大学生と「青年の起業」について意見交換をする

鳥取県 (③環境と企業の社会貢献)

環境に関する鳥取県の独自性を印象づけるとともに成果の高いプログラム作りに注力しました。鳥取環境大学では、学内の環境への配慮のレベルの高さを強調、鳥取大学では、世界最先端の乾燥地研究についての的を絞って説明をしました。また、とっとり自然環境館という、再生可能エネルギーの展開をしているASEAN諸国にとって将来性を感じられる施設を案内することができました。
(受入実行委員会アンケートより抜粋)



鳥取県平井伸治知事を表敬訪問する



鳥取大学乾燥地研究所を訪問し、具体的な研究について説明を受ける

北海道函館市 (④ボランティア精神に基づいた青少年の社会貢献活動)



北海道教育大学で東日本大震災後、学生が実施したボランティアの活動についての発表を聞き、意見交換をする



函館新聞に掲載された日ASEAN学生会議参加者の函館市役所表敬訪問の様子

鹿児島県 (⑤伝統文化)

伝統文化を若い世代へ継承していくことやグローバルに発信していくことを目的に、地域に根付いた活動を行っている団体等に協力を依頼したほか、行政(県、市)との連携強化に努めました。参加青少年と地元大学生のいきいきした表情や今後の人生を考える発言を通じて、この事業のもたらす人材育成の効果を目の当たりにし、事業の有用性を再確認しました。
(受入実行委員会アンケートより抜粋)



始良市蒲生町の蒲生和紙工房にて和紙作りを体験する



薩摩切子の繊細さに感動する

東京プログラム(後半) 3泊4日のディスカッションプログラム 12月12日(木)~15日(日) //

■ 開会式 12月12日(木)



一般財団法人青少年国際交流推進センター有馬朗人会長と各国リーダー、代表スピーチ青少年



青少年代表あいさつをするASEAN加盟国青少年代表(カンボジア)と日本参加青少年代表

日ASEAN特別首脳会議配偶者プログラム

安倍昭恵総理令夫人及びASEAN各国首脳等令夫人と各国参加青少年との懇談
 安倍昭恵総理令夫人と各国代表青少年との懇談

安倍昭恵総理令夫人、アニ・インドネシア大統領令夫人、ブン・ラニー・カンボジア首相令夫人、ホー・シンガポール首相令夫人、キエム・ベトナム首相令夫人、ロスマ・マレーシア首相令夫人の日ASEAN首脳令夫人、ASEAN諸国の外務大臣令夫人及び駐日大使令夫人等18名が日ASEAN学生会議を訪問されました。



各国参加青少年代表と懇談される安倍昭恵総理令夫人



昼食懇談会にて参加青少年に歓迎スピーチをする安倍昭恵総理令夫人



アニ・インドネシア大統領令夫人と参加青少年



ブン・ラニー・カンボジア首相令夫人と参加青少年



安倍昭恵総理令夫人、ASEAN各国首脳等令夫人と全参加青少年

各グループの目的とねらい

グループ① 教育

基礎教育は、人格形成に大きな影響を与えるとともに、基礎教育の普及度及び質の向上は、その国の国力の基本ともなる。日本の基礎教育の普及率及びその質の高さは世界に誇るものであり、その良さを知ってもらうとともに、青少年たちの目線で、基礎教育の重要性と在り方について論じ、青少年がASEAN諸国及び日本における次世代の育成に、基礎教育の充実の視点から、どのような取組にかかわることができるかを提案する。

奥平文子アドバイザー：「変貌する世界における教育：教室と国境を越えて」と題する基調講演後のディスカッションについての説明



葛飾区教育委員会による青少年教育施設「ポニースクールかつしか」（運営委託団体：公益財団法人ハーモニーセンター）を訪問する

グループ② 青年の起業

現代において、社会及び経済の活性化を考える際に、既成の企業の成長ばかりでなく、青年が新しい発想のもとに社会のニーズに対応した新たな経済分野を切り開いていく「起業」は、大きな力をもたらしていく。日本の代表的事例に接することを通じて、日ASEANコミュニティ形成を促進する観点から青年が起業しやすくするためには、社会的にどのような取組が必要なのか、また、青年自身にもどのような取組が大切なのかを論議してもらい、この二つの視点から提案する。

天野智之アドバイザー：「日本の留学・就業・起業環境について」の講義



株式会社旅と平和「バクチャーハウス東京」を訪問し、青年起業の厳しさややりがいについて知る

グループ③ 環境と企業の社会貢献

人間の経済活動によって生じる環境問題は、地球的規模の共通課題であるが、その解決に大きな役割を果たすべき責任を担うのが、経済活動の中心である「企業」である。ASEAN各国が一つのコミュニティとして今後発展するためには、日本が過去に経験したような環境問題を避けることが一つの鍵である。企業が、自らが取り組む社会貢献活動として、環境分野を取り上げる際に、市民との協力関係を築きながら取り組むことができれば、効果的な課題解決につながる。日本企業の代表的な取組を知ることを通じて、市民との協力関係構築の在り方についてディスカッションを行い、青少年が企業と協力して取り組むことができる事柄を活動として提案する。

坂本典子アドバイザー：「環境保全と企業の社会貢献活動について」の講義



有限会社エコネットワークスの方の案内でエコプロダクツ2013を訪問し、日本企業の環境への取組について理解を深める

グループ④ ボランティア精神に基づいた青少年の社会貢献活動

現代において、社会の安定や活性化を図っていくときに、青少年は重要な役割を担っている。社会全体が、青少年が社会に貢献する意欲を高め、活躍する場を提供することは、青少年一人一人の成長につながる。ひいては、地域や国の人材という財産を積み上げることになる。特に、ボランティア精神に基づいた社会貢献活動の促進は、行政や企業では行き届かない分野が活性化されることにつながるものであり、この分野への青少年の貢献は大きなものが期待できる。本プログラムでは、青少年の社会貢献活動を促進するためには、行政レベルまた個人レベルでどのような取組が必要か、また、青少年自身が意識を高く持ち、活動に取り組むにはいかに行動していくべきかを考え、まとめる。

村上むつ子アドバイザー：「市民社会の定義、サービスマーケティングと日本のボランティア状況について」



明治学院大学を訪問し、ボランティアセンターが学生に対して行っているボランティア活動の機会の提供や、その後の学生の変化などについて理解を深める

グループ⑤ 伝統文化

変化の激しい現代において、自国の伝統を守り、アイデンティティを継承していくためには、継承者の育成を積極的に行っていかなければならない。その意味で、青少年が自国の伝統文化の価値と継承の重要性を認識することは、継承者育成の第一歩である。こうした視点から、自国の文化を披露しつつ、今の時代に合ったものを取り入れながら、伝統文化をいかに継承していくかをディスカッションし、伝統文化の発信の在り方と継承への取組について提案する。



阿部一穂アドバイザー：「なぜ茶道は500年近くも継承されてきたのか」についての講義



裏千家東京出張所を訪問し、日本の茶道の伝統に触れる

■ 成果発表会と修了式 12月15日(日)



成果発表会での「環境と企業の社会貢献」グループの発表



一般財団法人青少年国際交流推進センター上村知昭理事長によるあいさつ



成果発表会での「伝統文化」グループの発表



修了証を受け取るタイ代表の参加青少年

参加者の感想 (アンケートからの抜粋)

グループ① 教育

日ASEAN学生会議は、特別な思い出になりました。出身地や宗教に関係なく、自分の国を発展させたいという共通の目的意識を持つ同世代の青少年と意見交換する機会になったからです。日本とASEAN諸国が抱える教育の課題について議論し、新しい解決策を生み出すために皆の意見をまとめることは挑戦でしたが、素晴らしい経験でした。今後、私は特に国際交流プログラムに興味を持ちながら、機会に恵まれない将来有望な若者に情報を発信していきたいです。(カンボジア)

グループ② 青年の起業

ディスカッションプログラムが一番楽しかったです。ディスカッションはあまり得意ではなかったのですが、チームで助け合って取り組んだため、心配いりませんでした。異なる国籍の青少年と議論するのは有意義で、彼らとのネットワークを大切にしていきたいです。今後は、ディスカッションで得た知識をミャンマーの教育、経済、環境、メディアの発展につなげていきたいです。初めての海外経験で、大きな満足を得ました。(ミャンマー)

グループ③ 環境と企業の社会貢献

最も印象に残っているのは、地方プログラムでの「とっとり自然環境館」

への訪問です。日本の自然環境について深く理解し、再利用とリサイクルという概念について学び、さらに、水力発電、風力発電、太陽光発電によって自然保護が促進できるということを知りました。(ベトナム)

グループ④ ボランティア精神に基づいた青少年の社会貢献活動

ディスカッションでは、ボランティア精神に基づいた青少年活動について新しい視点から多くの気づきがありました。大学でクラブを立ち上げたばかりなので、学生活動にかかわる多くの青少年との運営についての意見交換は有意義でした。国際協力の分野で社会貢献を続けていきたいです。一番の気づきは、住む国が違って、未来を切り開く青少年として、より良い社会の構築に向けて行動する点で共通部分があることです。(日本)

グループ⑤ 伝統文化

近代的な東京がとても印象的でした。そして、発展を続ける社会の中で、独自の伝統文化も維持しているということ、ディスカッション活動や課題別視察を通じて学びました。ディスカッションプログラム期間中、東京に滞在したことで、現代文化と伝統文化の融合を目の当たりにしました。(インドネシア)

一般財団法人 青少年国際交流推進センター主催
国際理解教育支援プログラム



国際理解教育支援プログラムは、内閣府青年国際交流事業の参加経験がある在日外国青年等を講師として日本の学校等に派遣して授業を行い、国際的な視野を持つ青少年の育成に貢献するもので、平成16年より継続して実施しています。平成25年度は、7か所で計8回のプログラムを行う予定です。

■平成25年度 第5回

日付	平成25年12月10日(火)
実施先	東京都大田区立羽田小学校
担当者	吉藤玲子校長、吉岡康裕先生(国際理解教育担当・2年担任)
対象	3年生(44名)
プログラム	身近な食べ物を通して、世界を知ろう。 (調理実習を含めた国際理解教育)
派遣講師	Ms. Sun Jiaru(中国)

■受入担当者の感想

大田区立羽田小学校 国際理解教育担当教諭 吉岡康裕

「身近な食べ物を通して、世界を知ろう。」をテーマに実施した授業に中国出身の孫先生に來校していただきました。まず、中国の説明をしていただき、子供たちに国内のことを分かりやすく教えていただきました。中国と一言にいても、とても広く、国内の北と南では文化や食事が違うことや日本で人気のアニメが放映されていることも分かりました。また、数名の子供がチャイナドレスまで着させていただき、とても興味深かったです。

その後の中国の「タンピン」という家庭料理作りでは、子供たちは優しいソンスンの言葉を熱心に聞いて、卵をつかってふんわりしたお好み焼きのような料理を作り、おいしく食べました。いつか中国を訪問したいという子供たちがとても増えました。

これからの日本は、ますますグローバル化し、多くの国の方と触れ合うことが増え、話す言葉も多言語化していくことと思います。そのような中、身近にいる海外の人と気軽にコミュニケーションを取り、相手のことを分かろうとする機会が増えれば、おもてなしのできる人が増え、人の心が豊かになると感じました。また、ぜひ、來校していただきたいです。シェイシェイ。ありがとうございました。



中国の地理・多民族・多言語・伝統行事・食事・服装等について学び、積極的に質問をする児童たち



中国文化を学習した後、講師の孫先生より中国の家庭料理「タンピン」の作り方を教えていただきグループに分かれて調理する児童たち

■平成25年度 第6回

日付	平成26年2月1日(土)
実施先	東京都品川区立清水台小学校
担当者	江田義亘先生
対象	全校生徒72名
テーマ	外国人講師による異文化紹介と生徒による英語での日本文化紹介
派遣講師	Mr. Musab Mohamed Ahmed (UAE) Ms. Hong Yejin(韓国) Mr. Ricardo Machado(ブラジル)

■講師の感想

Ms. Hong Yejin(韓国)

4年前、私が初めて日本に來たとき、似ているようで異なる日本文化に触れ、とても興味深かった。今回の講師依頼を受け、当時のことが多々思い出され、私の経験や感じたこと等を子供たちに伝える良い機会だと思った。

いたずらっ子のような子供たちも授業が始まると集中した。キムチをつけることも、朝・昼・晩「アンニョンハセヨ」と同じあいさつをすることも、子供たちには珍しいようで、きらきらと目を輝かせながら興味深く話を聞いていた。子供たちの日本文化紹介は、私一人で見るとにはもったいないほど可愛らしく、微笑ましかった。内容も想像よりとても充実していて、むしろ私のほうが勉強になった。言葉が通じない外国人に伝えようと悩む時間。子供たちにも私にとっても、まさに国際理解の時間だった。楽しかった一時間はあっという間に過ぎ、とても名残惜しかった。まだ伝えられていないことが多いのに、「ありがとう」のしるしとして、もみじのような小さい手で美しく折ってくれた紙の花は、春に咲く桜の花より、さらに私をときめかせた。



韓国の食文化やあいさつ等を児童たちに紹介する



外国人講師が自国の紹介をしたあとに、児童が日本文化(書写)を紹介し、一緒に体験する

◆問合せ先

国際理解教育支援プログラム担当: 田中 佐代子・大久保 正美 E-mail: iuesp@iyeo.or.jp Tel: 03-3249-0767

平成25年度内閣府青年国際交流事業 航空機による青年海外派遣報告会



平成26年2月9日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、平成25年度内閣府青年国際交流事業 航空機による青年海外派遣報告会を実施しました。当日は、都心でも27cmもの積雪を記録し、あいにくの天気でしたが、100名の来場者があり、参加青年及び関係者と合わせ、合計200名の規模での報告会となりました。

今年度は、二つの新企画が加わりました。「参加青年の1年間のあゆみ」では、本事業への応募から報告会まで、この事業に参加した青年の1年間の活動が紹介されました。また、「各派遣団成果発表」では、カンボジア、ドミニカ共和国、リトアニア共和国、中国、韓国、それぞれの訪問国での学びが発表されました。

参加青年は、本事業で何を学び、今後その学びをどのようにいかしたいのか、この1年間を振り返って、自分はどんな点で成長できたのかを心をこめて語りました。来年度事業への応募を検討している参加者にとっては、強力な後押しとなった報告会でした。

プログラム

時間	内容
13:00	開会式
13:15	プログラム概要紹介
13:25	参加青年の1年間のあゆみ
13:50	各派遣団成果発表(団別プレゼンテーション)
14:25	休憩
14:35	パネルディスカッション
15:15	平成26年度内閣府青年国際交流事業説明及び募集
15:35	ブースアピール
15:45	休憩
15:55	各派遣団等ブース展示
16:45	閉会式



事業への応募を決めた理由、選考試験の様子、研修での学び等を振り返り、成長を実感できた1年間だったと語る参加青年(参加青年の1年間のあゆみ)



カンボジアでの活動の様子を説明する(各派遣団成果発表)



本事業に参加して得られたことを今後どのようにしていきたいかを発表する(パネルディスカッション)



展示ブースを訪れた来場者に、訪問国の魅力を伝える(各派遣団ブース展示)

報告会実行委員長のあいさつ

高橋 侑希



「内閣府のこんな事業があるんだって」小学校の同級生のこの一言から、私は内閣府青年国際交流事業を知りました。当時、大学のゼミの出願のついでに、この事業にも応募してみようという軽い気持ちで応募したことを鮮明に覚えています。そんな私が、この場で、しかも、実行委員長としてあいさつをすることになるとは思ってもみませんでした。そして、この事業を通して、昨年とは全く違う新しい自分に出会えたと思っています。

私が考えるこの事業の魅力は、「内閣府だからこそ与えられる場」だと思います。つまり、全国から高い志を持った青年が集う「場」があるということです。生まれや専攻などバックグラウンドが自分とは全く異なる多種多様なメンバーが全国から集まります。自分では常識だと思っていたことがそうではなかったり、自分の考えをばっさり切られてしまったり、当初は戸惑いを覚えたものです。しかし、対話と議論を重ねることで、お互いのことを深く知り、お互いの良い点を吸収できました。今では、価値観が違うこと自体が魅力的だと感じています。このように他者との学びや教えを通して、新しい自分に出会うことができました。

もう一つは、「日本青年代表」という肩書のゆえに用意されている場です。「国を代表して派遣国で活動を行う」というプログラムだからこそ、大統領や大使への表敬訪問等がプログラムに組み込まれています。青年が一国の要人とお会いするという「場」は、今後の人生に大きな影響を与える貴重な経験となり、この事業の「青年育成」という目的を表していると思います。

私はこの事業から数多くのことを学びました。そして、団員は、恐らく自分の派遣国での体験を思い返していることでしょう。本報告会では、団員の声をリアルに届けられるように様々な切り口から展開しました。

高村光太郎の「道程」の一節に「僕の前に道はない。僕の後ろに道ができる」とあります。新しい「場」での自分の道を開拓していきましょう！

第40回「東南アジア青年の船」事業報告会

平成26年2月22日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第40回「東南アジア青年の船」事業報告会が実施されました。一般来場者(約200名)と今年度参加青年及び関係者合わせて約250名が参加しました。

今回は「私が生きるリーダーシップ」と題し、前半のパネルディスカッションでは、事業を通じてどのような活動をし、何を得てどのように成長したのか、そしていかにリーダーシップを発揮したのかを発表し、後半のブース展示では、参加青年一人一人が来場者と直接会話して、本事業の成果を伝えました。また、船内活動や寄港地活動を分かりやすく紹介するために、参加青年自らが作成した動画やパワーポイントを用いて発表しました。

参加青年のいきいきとした姿を見て、来年こそは、自分もこの舞台に立ちたいと強く願い、応募を真剣に検討する来場者もいました。



プログラム

時間	内容
13:00	開会あいさつ
13:15	事業概要・プログラム内容紹介
13:45	平成26年度内閣府青年国際交流事業参加青年募集
14:30	パネルディスカッション～私が生きるリーダーシップ～
15:40	展示
16:20	閉会あいさつ



パネルディスカッションで具体的なエピソードや自身の変化について語る

報告会実行委員長のあいさつ

畑澤 直希



みなさんこんにちは。

本日は第40回「東南アジア青年の船」事業報告会にご来場いただき誠にありがとうございます。報告会実行委員長、畑澤直希と申します。

私たち日本参加青年は、昨年10月から12月までの50日間、多くの成長するきっかけを得ました。

報告会を作り上げる過程で、私たちは試行錯誤を繰り返してきました。たくさんの方のことを学んだ実感はあるものの、うまく言葉で表現できないことにもどかしさを感じました。また、事業終了後には参加青年たちと顔を合わせることも難しくなりました。しかし、参加青年一同、連絡を密にとり、報告会を形にすることができました。今日、皆様に発表できることを光栄に思います。

本日の報告会のテーマは、「私が生きるリーダーシップ」です。

事業中は二つの機会に溢れていました。一つは自分自身を見つめ直す機会です。国籍、宗教、価値観の異なる330人の青年が一堂に会し、50日間共同生活を送りました。これまで経験のない環境の下、青年たちとの対話を通して、自分自身をより深く知ることができました。

二つ目は、実践する機会です。このプログラムには、学んだことを実践する場がありました。周りの助けを得ながら、何度も試行錯誤した結果、リーダーシップについての理解を深めていきました。

37人の参加青年それぞれが得た「多様な環境の中で、自分にしかできないこと、自分が生きるリーダーシップの形」を、本報告会を通じ皆様に伝えたいと強く思います。

私がこの事業を知ったきっかけは、3年前の報告会に参加したことでした。それから3年後、参加青年の一人として、皆様の前で成果を報告できることを誇らしく思います。

まだ参加したことがない方にとって、この報告会が私のように事業に応募するきっかけとなれば嬉しいです。

最後に、参加青年一同、報告会の準備を全力で進めてきました。短い時間ですが、皆様にとって有意義な時間となれば幸いです。



プレゼンテーションやパネルディスカッションで伝えきれない内容を展示で紹介し、来場者に説明する



相談コーナーで来場者の素朴な質問に答える



日本参加青年が作詞作曲したオリジナルソングを歌う

内閣府青年国際交流事業説明会 平成25年度実施報告

グローバル人材への一歩！
青年国際交流事業 説明会 内閣府

参加者募集中

【平成25年度の事業】
東南アジア青年の船 (東証上場企業)
説明会：10月11日(土) 13:00～15:00
募集内容：A 東南アジアの海外研修生としての派遣 (A 3名 B 3名 C 3名)
グローバルリーダー育成 (東証上場企業)
説明会：11月13日(水) 13:00～15:00
募集内容：A 海外研修生としての派遣 (A 3名 B 3名 C 3名)
国際青年育成交流 (東証上場企業)
説明会：11月14日(木) 13:00～15:00
募集内容：A 海外研修生としての派遣 (A 3名 B 3名 C 3名)
日本・中国青年親善交流 (東証上場企業)
説明会：12月2日(月) 13:00～15:00
募集内容：A 海外研修生としての派遣 (A 3名 B 3名 C 3名)
日本・韓国青年親善交流 (東証上場企業)
説明会：12月4日(水) 13:00～15:00
募集内容：A 海外研修生としての派遣 (A 3名 B 3名 C 3名)

平成26年1月17日(金)
17:15-18:45
場所：上智大学 四ツ谷キャンパス
12号館102教室

説明会の流れ(予定)：
(1) 概要説明
(2) OB-OGによる体験報告
(3) 青年国際交流事業説明
(4) OB-OGや担当者も交えての相談タイム

内閣府 青年国際交流 検索

内閣府青年国際交流事業を広報するため、内閣府からの契約に基づいて、首都圏の大学を中心に「事業説明会」を実施しました。平成25年度は6月21日(金)から平成26年1月17日(金)にかけて19か所で開催し、合計630名が説明会に参加しました。

今年度初めて高等学校においても事業説明会を開催し、高等学校卒業後すぐに応募資格があることを強調し、旅行や留学とは違った体験ができることを説明しました。

説明会では、内閣府担当者からの事業説明の後、既参加青年が応募の動機や事業に参加して得られたもの、今後、事業参加の体験をどのようにいかしたいか等を語りました。どの説明会でも応募を検討している学生は、熱心に説明を聴いていました。

内閣府青年国際交流事業説明会の流れ(所要90分程度を基本)

	内容	時間
1	内閣府担当者の事業概要と平成26年度募集概要説明	20分
2	事業既参加者の体験談発表(2名) 船による海外派遣事業既参加者による報告 航空機による海外派遣事業既参加者による報告	各10分
3	質疑応答&事業ごとに分かれて懇談会 (事業既参加者や担当者を交えて質疑応答)	約30分

平成25年度事業説明会実施一覧

月日	曜日	実施場所
6月21日	(金)	上智大学
10月3日	(木)	上智大短期大学部
11月13日	(水)	明治大学(駿河台キャンパス)
11月14日	(木)	玉川大学
11月18日	(月)	明治大学(和泉キャンパス)
11月21日	(木)	早稲田大学(早稲田キャンパス)
11月22日	(金)	津田塾大学(小平キャンパス)
12月2日	(月)	筑波大学
12月4日	(水)	東京外国語大学
12月6日	(金)	法政大学(市ヶ谷キャンパス)
12月9日	(月)	明治学院大学(横浜キャンパス)
12月11日	(水)	獨協大学
12月12日	(木)	青山学院大学(青山キャンパス)
12月13日	(金)	成田国際高等学校
12月13日	(金)	中央大学(多摩キャンパス)
12月16日	(月)	一橋大学(国立キャンパス)
12月18日	(水)	東京大学(弥生キャンパス)
1月15日	(水)	国際基督教大学
1月17日	(金)	上智大学(四ツ谷キャンパス)



成田国際高等学校の説明会で事業既参加者の体験談を真剣に聴く高校生たち



明治学院大学の説明会で内閣府担当者の事業概要説明を聴く参加者たち



獨協大学の説明会で事業既参加青年が体験談を発表した後、応募を考えている学生と懇談



四国ブロック大会

期 日：平成25年10月13日(日)～14日(月・祝)
 会 場：レスパスシティ(愛媛県東温市)
 テーマ：「地域での活動が世界を舞台に花開く」
 ～自分の力を信じる心が新たな道を切り開く～

第1日目 10月13日(日)	
13:30	開会式
14:00	帰国報告会
15:15	基調講演：「地方都市から始まる国際交流への種まき」 講師：越智陽一氏(株式会社ジョイアート代表取締役社長)
17:00	ワークショップ「○○になりきって考えてみよう！」
19:30	懇談会
第2日目 10月14日(月・祝)	
7:00	朝食(任意参加：サイクリング)
10:30	歌舞音曲劇「げんない」観劇、終演後、役者とのトークショー
13:00	閉会式
13:30	地域理解研修：どぶろく工房「由紀っ娘」見学と昼食(任意参加)



農業、観光、養殖、国際交流、教育機関の五つの業種にグループ分けをし、予め準備していた現状と課題を基に、それぞれの業種に携わる人になりきって意見を自由に出し合い、グループごとに発表をしたワークショップ

開催にあたり工夫した点(実行委員会のコメント)

地産地消の観点から、メニューに地域の新鮮な食材・献立(この季節ならではの芋炊き)を取り入れ、子供がいる参加者には、料理やミュージカル観劇の際の座席について事前に希望を伺い、家族でも参加しやすいよう工夫をしました。ワークショップを円滑に行えるよう、愛媛県IYEO会員で、その業種に関係がある人を各グループに配置し、当日はグループ内でファシリテーターの役割を果たすようにしました。

参加者数：38名

北信越ブロック大会

期 日：平成25年10月19日(土)～20日(日)
 会 場：亀清旅館(長野県千曲市)
 テーマ：もっと身近に感じよう 地域のこと 世界のこと
 ～信州で過ごすほっとな2日間～

第1日目 10月19日(土)	
13:00	開会式
13:45	分科会 ①地域と世界を考える：「長野で活躍している多国籍で多様なバックグラウンドを持った仲間たちとの交流」 ②信州の郷土食を知る：「お漬物を使ったアイデア料理作り体験」 ③信州の自然を感じる：「千曲河畔deノルディックウォーキング」
16:00	基調講演：「グローバル化に対応可能な国際人材には何が必要か」 講師：橋田正造氏(青山学院大学大学院特任教授/筑波大学大学院非常勤講師)
19:00	懇談会
21:00	地域理解研修①：姨捨の棚田夜景散策(任意参加)
第2日目 10月20日(日)	
9:00	オープニングトーク：「青い目の若旦那が考える外国人観光客の求めるおもてなし」 講師：タイラー・リンチ氏(亀清旅館若旦那)
10:00	帰国報告会&参加者交流会
11:00	閉会式
12:00	地域理解研修②：松代まち歩き体験(任意参加)



国際経済を専門とし、これまで政府系金融機関などで世界50か国への出張・勤務経験や、各国の経済開発、発展に尽力されている経験をベースに講演される橋田正造先生

開催にあたり工夫した点

(実行委員会のコメント)

地元の大学生や留学生にも参加を募り、幅広い世代、異なるバックグラウンドの方から様々な意見を聞くことができるようにしました。地域で活躍する外国人、地域で世界に日本食文化を発信する日本人等、地域と世界とのつながりを持った方々と交流できるプログラムにしました。

参加者数：72名

中国ブロック大会

期 日：平成26年1月18日(土)～19日(日)
 会 場：山口県下関市海峡メッセ下関
 (山口県国際総合センター)
 テーマ：知っちょる?異文化交流の原点、ひらめこう!
 これからの国際交流
 ～海峡の歴史と文化が織りなす関門から～

第1日目 1月18日(土)	
13:30	開会式
14:00	分科会 ①リトル釜山で歴史散策 ②幕末の下関一海峡の国際交流 ③下関の海洋文化と世界とのつながり
16:15	基調講演：「縄文・弥生から始まる異文化交流の原点」 講師：松下孝幸氏(土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム名誉館長)
18:40	懇談会
第2日目 1月19日(日)	
9:00	振り返り
9:45	帰国報告会
11:00	閉会式
11:50	地域理解研修：(任意参加) ①唐戸地区歴史的建造物ウォーク・自由散策、②ふく料理体験学習

近畿ブロック大会

期 日：平成25年11月30日(土)～12月1日(日)
 会 場：ホテルルビノ京都堀川(京都府京都市)
 テーマ：2013年国際都市京都で考える、「わたし」ができること

第1日目 11月30日(土)	
13:00	開会式
13:15	オリエンテーション 全体会「将来を考える講演会」 講師1：仙石琢也氏(株式会社ジェイケイ・ブランディング代表取締役社長 兼 事業プロデューサー) 講師2：吉野 慶一氏(Dari K株式会社代表取締役)
15:15	分科会 「京炎そでふれ!」、「坐禅体験」、「和菓子づくり」
19:00	懇談会
第2日目 12月1日(日)	
10:00	シンポジウム
10:10	オープニング 内閣府青年国際交流事業、IYEOとは
10:20	基調講演：「新島襄の人生から考える、国際交流の意義」 ～「志」に生きた人 新島襄～ 講師：平松讓二先生(同志社女子中学高等学校教頭)
11:30	帰国報告会
12:30	閉会式
13:00	事後活動を考えるワークショップ(任意参加)



シンポジウム「未来を見据え、青年の国際交流を考える」にて、基調講演をいただく平松讓二先生



将来グローバルな活躍を目指す会員に向けた「将来を考える講演会」にて、京都で人材キャリア教育事業などを展開する仙石琢也氏(写真左)及び、革新的なビジネスモデルでフェアトレードの新しいかたちを実現している吉野 慶一氏(写真右)から、国際交流事業参加経験をいかした将来を考えるきっかけとなる内容の講演をいただいた

開催にあたり工夫した点(実行委員会のコメント)

会員の中の若年層にも参加してもらえようという構想で計画に取り組みました。大会テーマは時代に沿っていて、皆で考えることが必要と思われるものを選びました。また、テーマに沿って、可能な限り多様なプログラムを用意しました。

参加者数：55名

九州ブロック大会

期 日：平成25年12月7日(土)～8日(日)
 会 場：京都屋(佐賀県武雄市)
 テーマ：地域を見つめて世界とつながる
 —ゆつつら～と結ぶ・SAGAでの絆—

第1日目 12月7日(土)	
13:00	開会式
13:40	基調講演：「若者よ、夢を持ち 世界に羽ばたけ! ～松下幸之助氏に学ぶ経営の心～有田焼万年筆と万華鏡に見る知恵の出し方」 講師：石川慶藏氏(有限会社佐賀ダンボール商会代表取締役社長)
15:25	分科会 ①地域資源に韓国人のワクワクをプラスする…☆武雄オルレ体験☆ ②透かし彫りに挑戦! 武雄焼で香炉作り～暮らしに癒しの香りを添えて～ ③世界とつながる! 有田焼のテーブルコーディネート ④体感! 武雄から宇宙まで!～佐賀県立宇宙科学館「ゆめぎんが」～
18:00	懇談会
20:10	夜の「武雄市図書館」見学(任意参加)
第2日目 12月8日(日)	
9:00	帰国報告会
10:30	閉会式
11:30	地域理解研修：「SAGAしてみよう! 地域から世界に誇れる日本の宝!～日本磁器発祥の地、有田400年の響きを体感～」(任意参加)



地域理解研修で、焼き物の神様が祭られている陶山神社にて、宮司さんからのお話を聞き、碗琴の演奏を楽しんだ

開催にあたり工夫した点(実行委員会のコメント)

佐賀の魅力をお伝えしたいという強い思いが実行委員会の中にありました。二日間という限られた時間ではありますが、大会を通して佐賀に親しみをもち、足を運んでいただきたく、参加される方の立場に立った大会の企画運営を行いました。また、広く一般の方にIYEOの活動を知ってもらうためにも、基調講演については、Facebookや新聞などを通し、広報周知に力を入れました。

参加者数：74名



開催にあたり工夫した点(実行委員会のコメント)

基調講演では、異文化交流の原点とは何かについて知り、これからの国際交流の在り方を考えることができるような内容となるよう講師に依頼・打合せをしました。懇親会では、席をくじ引きで決め、同じテーブルの人が互いに初対面でもグループで話す機会を作ることができるようになりました。本大会での学びをより深いものにするために、会員同士がこれからの国際交流を行う上で得られたヒントについて意見交換する振り返りの時間を設定しました。

参加者数：73名

本大会で学んだことを今後どのようにいかしていくのか、会員同士で意見交換する

IYEO自主活動サポート助成金制度を活用した活動

平成25年度IYEO自主活動サポート助成金制度(チャレンジ・ファンド)を活用した活動が8件実施されました。今号では、後期実施した事業のうち1件を報告します。詳細はこちらを御覧ください⇒<http://www.iyeo.or.jp/ja/profile/challengefund.html>

Meet Africa ～遠くて近いアフリカの空～

沖縄県青年国際交流機構(沖縄県IYEO)

日程：平成25年11月9日(土)、10日(日)

場所：JICA沖縄国際センター(OIC)(沖縄県浦添市)

「国際協力・交流フェスティバル2013」(JICA沖縄国際センター主催)は、過去最大となる5,936名の来場者が集い、国際協力・交流に関する沖縄県民への理解を促進しました。

その中で、沖縄県IYEOは、『Meet Africa ～遠くて近いアフリカの空～』と題した西アフリカドラムワークショップ、ブース出展及びブース内でのミニワークショップを開催し、積極的に異文化紹介を行いました。ドラムワークショップは、沖縄県在住ガーナ人ドラム奏者が演奏し、多くの来場者がドラムをたたき楽しみを味わいました。また、ミニワークショップでは、アフリカ



布とアフリカンビーズを使った小物作りをし、親子で参加する姿もありました。

魅力ある展示やイベント内容で来場者の興味を惹いた上で、内閣府の青年国際交流事業のリーフレットを来場者に手渡して事業紹介をすることで、効果的に事業広報ができました。

開放的な雰囲気の中、参加者が耳と手と体でアフリカのリズムを感じながら、人との触れ合いと音楽を通じた異文化交流をすることができ、主催者からも、「国際交流」を身近に実践できる恰好のイベントになったとの評価を受けました。



お知らせ

「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」の既参加者が出版しました！

北欧デンマークの障がい福祉の今 日本の障がい福祉現場で働く若者たちが出会った現実

平成24年度「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」(第11回)(デンマーク派遣団(障害者分野))
田中 一旭、河本 真代、岸川 大樹、高田 奨、中元 美々、諸井 一郎

発行：かもがわ出版 <http://www.kamogawa.co.jp>



今月の表紙

スリランカ教育支援プロジェクト「One More Child Goes To School」の奨学生の作品。スリランカのビーチは、子どもたちにとって放課後の絶好の遊び場。それに対し、多くの親にとっては、描かれている伝統的なカヌーにも表わされているように仕事場です。津波の被害に遭いながらも、人々は海を生活の場とし、心から愛しています。



編集後記

P.9「平成25年度内閣府青年国際交流事業(航空機による青年海外派遣)報告会」は2月9日に開催されました。会場である渋谷区のオリンピックセンターでも大雪が積もり、室内から外を眺めているとまるでスキー場にいるような気分でした。雪に慣れていない私たちスタッフは、施設内で荷物を台車に乗せて移動させる際に、積もった雪につっこんでしまい、大騒ぎになりました。雪をものともせず、報告会に来てくださった方に心から感謝しています(ふ)

MACROCOSM 3月号 vol.105

2014年3月20日発行

編集 マクロコズム編集委員会

発行 一般財団法人 青少年国際交流推進センター
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町
2-35-14 東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centerye.org/> (CENTERYE)

<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 内閣府子ども若者・子育て施策総合推進室
日本青年国際交流機構 (IYEO)

定価 200円 本体191円

印刷所 株式会社デックス

TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270

「ココロ花咲く、ステキな旅を。」

支店名	電話番号
札幌支店	011-221-0821
青森支店	017-723-3671
盛岡支店	019-651-8800
仙台支店	022-263-3232
秋田支店	018-866-0109
山形支店	023-641-4141
福島支店	024-523-4451
水戸支店	029-224-6627
宇都宮支店	028-636-7761
高崎支店	027-325-3201
さいたま支店	048-640-1009
千葉支店	043-243-0109
ストリームライン 新宿支店	03-5348-3500
横浜支店	045-326-1120
甲府支店	055-222-0381
新潟支店	025-243-1515
富山支店	076-431-7638
金沢支店	076-233-0109
福井支店	0776-23-2800
長野支店	026-226-4315
岐阜支店	058-263-4657
静岡支店	054-255-1919
名古屋支店	052-232-1091

支店名	電話番号
三重支店	059-221-3331
滋賀支店	077-565-0109
京都支店	075-361-5351
大阪支社第2営業部	06-6344-3927
神戸支店	078-221-1090
奈良支店	0742-23-2371
和歌山支店	073-425-3211
鳥取支店	0857-23-2001
松江支店	0852-21-5425
岡山支店	086-225-1746
広島支店	082-545-1090
山口支店	083-972-5454
徳島支店	088-622-8991
高松支店	087-851-6666
松山支店	089-941-9231
高知支店	088-825-0109
福岡支店	092-739-0010
佐賀支店	0952-26-1131
長崎支店	095-827-4151
熊本支店	096-354-5765
大分支店	097-538-1091
宮崎支店	0985-25-6111
鹿児島支店	099-257-0109
沖縄支店	098-868-8822

国際会議からご出張まで、
お問合せは、上記支店またはお近くのトップツアー各支店へ

お客様満足度100%+αを追求するサービスマインド。

お客様の立場になる「想像力」、プラスアルファを創る「創造力」。

50年の実績と豊富な情報力を駆使して

高品質・高付加価値の商品とサービスを提供するトップツアー株式会社。

私たちは、旅を通じて新しい出会いと感動を創出する

[旅行インテリジェンス企業]です。



東急観光が社名を変えました。

トップツアー株式会社

観光庁長官登録旅行業第38号 日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿木村屋ビル16階

<http://www.toptour.co.jp>

国際旅行事業部 ストリームライン新宿支店

03-5348-3500



10450055(02)
JISQ15001:2006準拠



撮影：中村風詩人



花咲く季節に心浮き立つ

花々のつぼみがほころび始め、風景が彩りを増すはじまりの季節がやってきます。
身も心も軽やかに穏やかな風と陽光に誘われるまま初めての場所へ出かけませんか。
新しい感動に出会える旅ににっぽん丸がご案内します。



○詳しいパンフレットをご用意しています。最寄りの旅行会社または、下記へお問い合わせください。

商船三井客船 クルーズデスクフリーダイヤル 9:30~17:00(土・日・祝はお休みです) 〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル5階
☎0120-791-211 <http://www.nipponmaru.jp>